

親鸞教學

親鸞の還相回向論	幡 谷 明	1
「謹按浄土真宗」とその意義	臼 井 元 成	25
救済現成の構造	江 上 浄 信	42
畢 竟 依	安 藤 文 雄	56
清沢満之ノート	熊 木 剛	66
——近代の信仰の確立——		
御同朋御同行	鳥 越 道 船	76
オランダの宗教事情瞥見	大 河 内 了 義	92
——安田理深先生への報告——		
不断煩惱得涅槃	曾 我 量 深	111
真言と解釈(11)	金 子 大 榮	125

43

大 谷 大 学 真 宗 学 会

謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。

一つには往相、二つには還相なり。

往相の回向について、真実の教行信証あり。

（『教行信証』教巻）

編集後記

ここに『親鸞教学』第四十三号を、おとどけいたします。

今号には、幡谷先生は『論註』を中心にして親鸞の還相回向について論究してくださいました。臼井先生は、時機の自覚ということを通して親鸞の「謹按浄土真宗」の意義を推求されています。江上先生は、救済現成の宗教生活を罪障と救済の関連において論じておられます。安藤特別研修員は、親鸞によって浄土真宗として確かめられた宗教の本質とは何かを考察されています。

また学会外よりは、大河内先生に御多忙の中ご執筆いただきました。安田先生に深い因縁を結ばれた先生には先号への御寄稿をお願いいたしました。が、ライデン大学への御出講と重なり、果たすことを得ませんでした。しかし今回、編集子の願いをお聞き届けくださり、安田先生への報告ということでオランダの宗教事情についてご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

さて、『親鸞教学』では真宗学のさらなる充実を願って、今号より原稿を公募いたしました。それに応じられたものもなかより今回は、熊木剛（博士課程一回生）・鳥越道船（修士課程一回生）両氏の論文を掲載いたしました。今後も読者諸兄の積極的な御応募を期待いたします。

曾我先生は「不断煩惱得涅槃」について、金子先生の「真言と解釈」は精神主義の課題の第三講「浄土への思慕」のご講義です。

私共の生活は実にたくさんの方の問題のなかに経過してゆきます。しかし、——とここで、一体何があなたの問題なのですか——という問い掛けを、自分の内に聞いた時、生活の中に溢れていた雑多な言葉は一瞬にしてその口を閉ざし、何ひとつ答えてくれません。しかし、その沈黙は、自己の生活への自己の関わり方の粗雑こそが今一度——教えによって——問い直されなければならない事柄であるということ語りかけているように思われます。

（藤嶽）

昭和58年12月10日 印刷
昭和58年12月20日 発行

親鸞教学 第43号 定価 900 円

京都市北区小山上総町22

大谷大学真宗学会

親鸞教学編集部

発行人 幡谷 明

大谷大学真宗学会 振替 京都 6-8225番

京都市中京区寺町通三条上ル

文栄堂書店

振替 京都 8-2948番

京都市下京区七条御所ノ内中町50

中村印刷株式会社

電話 (313) 一〇四六八番

編集
発行

発売

印刷

SHINRAN KYOGAKU

The Otani Journal of Shin Buddhism

Vol. 43

親鸞教學

December 1983

Shinran's Concept of Returning Ekō, HATAYA AKIRA

The Significance of Shinran's Statement:

“As I Humbly Reflect on the True Teaching of the Pure Land”, USUI GENJŌ

The Structure of Shin Salvation, EGAMI JŌSHIN

Ultimate Dependence, ANDŌ FUMIO

Notes on Kiyozawa Manshi: The Establishment of Faith in the Modern World, KUMAKI TSUYOSHI

The Concept of Spiritual Fellowship (Dōbō), TORIGOE DŌSEN

A Glimpse of Religious Affairs in the Netherlands,
ŌKOCHI RYŌGI

On Attaining Nirvāṇa Without Severing Passions, SOGA RYŌJIN

True Word and Its Interpretation (11), KANEKO DAIEI

THE SHIN BUDDHIST SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

親鸞教学

第四三号

昭和五十八年十二月二十日発行

大谷大学真宗学会